肯定感を育成することだと思います。そして，その手法は，中学校へのモジュール授業の導入により道筋がつけられると考えているのですが。

【陰山】現在，小学校や高校でも「荒れる」「もめる」事件がありますが，中学校，とりわけ公立中学校の比ではありません。中学校に行った途端に授業についていけなくなる子どもが急増するのがその原因といわれています。小学校と中学校の教育課程がつながっていない，さらにそれぞれが重視するポイントの食い違いからこういった事態がおきるのです。カリキュラムに一本の筋を通すことで，つまり「生活改善・学力向上プロジェクト」を一環して行うことで問題は解消の方向に動かすことができるのです。そういう点では，山陽小野田市の中学校への全市的な取組みは，日本の教育が今まで見過ごしてきた問題に手を付けたことになります。文部科学省もこの試みを応援しているわけですが，それは教育界の総力をもって，この難問に決着を付けなければならないという危機感のあらわれです。私は，一年弱の山陽小野田市での取組みを見ていく中で，日本の学校の底力は相当に高いと感じました。そう長い時間をかけることなく，山陽小野田の中学校の先生も結果を出されると思いますし，そのために私も最大限の協力をしていこうと思います。

“いじめ”は道徳観を押し付けても解決しない。大人が子どもを尊重し，愛情を与えることから

【江澤】関連して，深刻化するいじめの問題ですが，子どもが抱えきれないストレスを持ち，自己肯定感を持てない根本的な原因は，社会構造から来るものと考えています。それが家庭を通して子どもに影響しているのではないでしょうか。本市においても問題行動に対処する方法として，専門部署の設置について現在検討しているところです。

【陰山】一つの考え方として道徳授業に力を入れるという意見もありますが，私はあまり決定的な意味を持たないと思います。それは子どもがきちんとものを考える力を持っていないからです。「ものを盗んではいけない」「人を殺してはいけない，いじめてはいけない」そ